

仙台市

平成30年 新年号

農業委員会だより

編集と発行 仙台市農業委員会
 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
 TEL 022(214)4308(直通)
 FAX 022(215)5803
 ホームページ <http://www.city.sendai.jp/shinko/jigyosha/kezai/norin/nogyo/sendaiishi/index.html>

発行日 平成30年1月1日



謹賀新年

仙台市農業委員一同

農業経営改善講習会を

開催しました

平成29年11月2日(木)、市役所8階ホールにおいて、認定農業者、業務推進員、農業委員等73名参加のもと、宮城県農業法人協会会長で有限会社 大郷グリーンファーマーズ代表取締役社長 郷右近秀俊氏による講演会を開催しました。

郷右近氏からは「私たちは、真心とおいしさ安心をお届けします」と題し、水稲や野菜、採卵鶏による資源循環型農業の実践や、消費者との交流など、法人の事業展開を通じた地域活性化や消費者との信頼を高めるための取り組み状況等をお話していただきました。

講演後は、従業員等の人材確保や育成のための具体的な取り組み、農産物販売先や戦略、モチベーションの上がる経営管理法など農業経営にとってかせない課題について活発な質疑応答が行われました。

参加者からは、「農業の魅力や大切さを再認識した」、「今後の農業経営の参考にしていきたい」などの感想をいただきました。



あけましておめでとうございます



仙台市農業委員会

会長 佐々木 均

皆様には、お健やかに新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年は、天候不良の影響で、米の登熟が進まず、平年に比べ、収量等が落ちてしまいました。概算金が上がったこともあり、一息ついたといったところでございますが、今年こそは、天候に恵まれ、豊作となることを期待しています。

さて、平成28年4月に農業委員会法が改正され、農業委員の選出方法が選挙制から市長の任命制に変更されるとともに、農地利用最適化推進委員が新設されました。

本農業委員会では、新たな農業委員会の本年7月発足に向け、準備を行っているところでございます。この改正によって、農業委員会は、これまで以上に農地等の利用

の最適化（遊休農地の解消、担い手への農地利用集積、新規参入の促進）を進め、農業・農村の所得向上を目指すといった、大きな役割と責任を担うこととなりました。

折しも、平成30年産米から、国からの生産目標の配分は無くなるなど、稲作経営は、新たな局面を迎えております。このため、農業委員会では、農地中間管理機構やJAと連携し、農地の集約化による生産コスト削減等による所得安定に取り組んでいきます。

併せて、農地は一度遊休化すると、営農再開は難しいため、遊休化を未然に防ぐため、引き続き農地パトロールによる農地の保全を進めてまいります。

農業委員の任期が今年7月に満了となります。現委員の任期も残り半年余りとなりますが、委員一同、農家の皆様一人ひとりの声に耳を傾けながら全力で職責を全うすることを約束し、年頭にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

秋の農地パトロールを行いました



平成29年10月26日(木)、11月7日(火)、9日(木)に本年度2回目の農地利用状況調査を実施しました。

今回は、6月から7月にかけて行ったパトロールで調査出来なかった宮城地区、六郷地区、秋保地区の合計82筆を、農業委員と業務推進員等が、地図等を利用しながら一筆の農地ごとに注意深く調査を行いました。

前回と今回の調査結果をもとに、耕作が可能な遊休農地について所有者の方に利用意向調査を行い、営農の再開や担い手への貸付促進など、農地の適正な利用に向けた活動を行ってまいります。

東京都内の各農業委員会 会長との懇談会

平成29年10月26日(木)、27日(金)に東京都内の各農業委員会会長、事務局長等63名が、仙台市に視察に訪れました。

一日目は、(農)井土生産組合と(株)みちさきの野菜生産の現場視察等を行い、二日目は仙台市農業委員会会長ほか5名の役員と、農地流動化や認定農業者等への支援、市民に向けた農業委員会活動などをテーマに意見交換会を行いました。

東京都は、市街化区域内に農地が多く、本市と置かれている環境は異なりますが、野菜生産、貸し農園など、都市近郊農業の実践状況は、本市の農地利用の参考にもなりました。



農業委員、農地利用最適化推進委員について

農業委員会等に関する法律の改正に基づく、「農業委員」及び農地等の利用の最適化（担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）を推進するために新設された「農地利用最適化推進委員」の定数及び報酬が決定しましたのでお知らせします。

★農業委員

- ・定数：19人
- ・報酬：月額 会長78,000円、会長職務代理者71,000円、委員63,000円（現行と同額）
- ・任期：平成30年7月15日から平成33年7月14日まで
- ・主な業務：月一回の農業委員会総会における農地の権利移動や転用に係る許可等の審議及び農地等の利用の最適化に係る指針策定、行政庁へ施策の改善意見提出など

★農地利用最適化推進委員

- ・定数：34人

- ・報酬：月額40,000円
- ・任期：農業委員会が委嘱した日（平成30年7月15日以降）から平成33年7月14日まで
- ・主な業務：担当区域内の農地に係る利用状況調査、農地等の利用の最適化に係る現地調査及び農業者との調整、農業委員会総会における活動報告及び意見申述、農業者の相談対応など

新たな農業委員、農地利用最適化推進委員については、平成30年2月頃に公募を行い、議会の同意等の後、任命、委嘱されます。応募方法などは、仙台市のホームページ等で平成30年2月にお知らせします。

農地部会全域現地調査会を行いました

平成29年12月8日(金)農地部会において、農地法第4条及び第5条の転用許可を受けた若林区の農事組合法人や、泉区の商業施設等について現地調査を行いました。

調査の結果、計画どおりに利用されていることを確認しました。

農業者年金「新規加入者説明会」を開催

農業委員会では、「老後の備えとして農業者年金」の標語の下、加入推進を行っております。平成29年9月14日(木)に農業者年金の制度説明会をJA仙台西多賀支店において開催しました。

西多賀・中田地区の青年部の方々が多数参加され、「農業者年金の受け取り方」や「所得税等の社会保険料控除の考え方」等について、熱心に質問をしていました。

農業委員会では、より多くの方が年金に加入されるよう、次年度以降も説明会を開催していきます。農業者年金の加入・受給に関するお問い合わせ先は、左記のとおりです。

問い合わせ先 事務課振興係
電話 214-4353



農業経営セミナーのお知らせ

「2年分の確定申告からできる経営分析」と題して次によりセミナーを開催します。

◆日時：平成30年1月31日(水) 午前9時から12時まで

◆会場：JA仙台高砂支店2階会議室（宮城野区福室二丁目7-13）

◆対象者：市内の農家の方で2年分の確定申告（損益計算書）等を事前に準備できる方

◆講師：農業経営診断士 本田 茂氏

参加を希望される方は平成30年1月12日(金)まで、電話又はFAXでお申込みください。

申込先 事務課振興係
電話 214-4353
FAX 215-5803

平成30年農作業標準料金等の設定について

平成30年の農作業受委託の目安となる「農作業標準料金表」は、広報紙「JAせんだい」2018年3月号に折り込む予定です。

また、仙台市ホームページにも掲載します。

あなたの出番です

青葉区大倉にお住まいの

早坂 いく子さん

にお話しを伺いました。



Q 農家のお生まれですか？

A 実家は農家ではなく、サラリーマンの家庭で3人兄弟の末っ子として、青葉区上愛子に生まれました。

嫁ぐ時に、親からは、「お前は農家には向いてない、帰って来ても家には入れないからな！」と言われました。

それから40年経過しましたが、実家に戻ることもなく、今まで、農業を続けることができました。

Q どのような農業経営をしていますか？

A いろいろな野菜をインショップへ出荷しており、11月は、米の出荷も終わり、年明け1月から出荷する曲がりねぎの作付管理をしています。また、学校給食用の雪菜も出荷を始めました。

Q あなたの楽しみは？

A 日々の農作業や、JA女性部の行事に参加させていただき、メンバーのおしゃべりなどを楽しんでいきます。また、3人の孫の成長を見守ることも楽しみのひとつとなっています。

Q これからの夢は？

A いつの間にか還暦も過ぎてしまい、これからも健康でいられる限りは夫と2人でコツコツと地道に今の農業を続けていきたいと思っています。

(聞き手：小野寺潔委員)



がんばっています

太白区袋原

鈴木 一則さん



私は地元の電気メーカーに就職後、転勤のため仙台を離れました。農繁期は忙しいので仙台に戻り、トラクターやコンバイン等の機械

作業を行い、両親を手伝っていました。長男なので、いずれは農業を継がなければと思っていましたが、子供たちが社会人になったのを機会に、9年前に就農を決めました。就農後3年目までは、農業や営農方針で父と口論もしましたが、父が亡くなり営農の中心となった今では、父の言っていた事が理解出来るようになりました。現在、母、妻、私の3人で水田、

畑をそれぞれ約1ha耕作しています。地元の先輩方のご指導や取引先の方々のご協力により、野菜栽培の楽しさや奥深さ、収穫の喜びを感じ、自分自身が成長したと思います。今は、露地野菜を自宅前の直売所で販売し、主力商品である「玉ねぎ」は、大手スーパーの直売コーナーへの出品や加工業者への納入をしています。また、水稲は、ほ場整備地内で直播にチャレンジし、作業の効率化を図っています。近年、流通、生産、加工の多様化等、農業を取り巻く環境が激変している中、そんな変化にも対応して行けるようがんばって行きたいと思っています。

(担当：鈴木通委員)

編集後記

あけましておめでとうございます
今年も今年、物事を始めるのに良いとされています。7月には新体制での農業委員会がスタートします。農家の皆様に明るい話題をお届け出来るように編集委員一同、これからもより一層精進してまいります。

(編集委員長 阿部弘昭)